

3 受入れ施設の心構え

(1) オリエンテーションの実施

各社会福祉施設において、介護等体験のためのオリエンテーションは必ず実施してください。

オリエンテーションを各学生の体験初日に行う場合や、体験が始まる前の別の日に時間を設け、個別または当該施設の体験学生を集めて行う場合などがあります。実施日の設定は各施設の判断で構いません。受け入れる学生数や事業種別等の事情によりそれぞれ実施してください。

オリエンテーションでは、学生の準備の状況や心構えを確認するとともに、介護等体験の目標を担当者・学生の相互で確認します。

最初に、社会福祉の基本的な理解や施設のルール、利用者と接する際の注意点などを必ず確認して、事故や誤解が生じない充実した体験につなげます。

(2) 地域住民であることや広報マンの意識

介護等体験は、学生が所属する大学所在地または学生自身の実家がある県で申込みます。さらに体験先施設の決定には“通える地域”が優先されます。

つまり、受け入れる学生は、将来にわたりその地域で家族を持ち生計を営む可能性がある方です。

そこで、地域住民だという視点を持つことが大切で、施設での体験が充実したものになると、体験した学生が地域で施設を応援してくださる広報マンになっていくことにつながります。

(3) 社会人としての未熟さや専門用語を知らないことへの理解

先にも述べましたが、1年生、2年生が多い介護等体験では、これから社会人としてのマナーやコミュニケーション力を身に付ける方も多く、また医療・福祉系学部や教育学部以外の学生も多く体験します。

これぐらいは常識だ、わかるだろう、といった態度ではなく、社会福祉の理解者を育てる伴走者として指導をお願いします。

(4) 体験プログラムの策定にあたって

受け入れにあたり、次を参考に 5 日間の体験プログラムを組み立てましょう。

①事前準備

- 体験中の担当者（身近で話を聞く役割の職員）を決めましょう。
- 学生の自己紹介シートや通ってくるルートなどを確認しておきます。
- 担当者以外の職員や利用者にも、学生の名前や受入れ期間、体験の趣旨等を周知しておきます。

学生は、職員からの「何の実習だっけ?」「いつから?」といった声掛けに対し「自分は迷惑なのかな」と感じる場合があります。職員全体の態度や雰囲気からも、施設の印象が定まることも多いようです。

- 受け入れることを歓迎していることの表明

ロッカーや下駄箱などを学生のために準備してあると本人は嬉しいものです。ちょっとした気遣いで体験意欲は高められるものです。

②オリエンテーション・施設見学の準備

- 施設概要や機能を紹介するパンフレットや利用者の特徴を説明する準備
- 基本的なマナーや注意事項等、体験プログラム（5 日間）の説明資料等
- 施設内をみてもらう準備

③体験プログラムでご留意いただきたいこと

- コミュニケーションの時間

学生の気づきや質問への対応、振り返りなど、担当者と学生のコミュニケーションの時間は毎日必ず設定しましょう。

- ひとりぼっちにしない

最初から単独作業に偏りすぎないように交流等を組み込んでください。

学生は「職員は忙しそうだから」と遠慮している場合も多く、不安を抱えたまま作業・支援等を行っていることがありますので、職員の声掛けは大切です。

- 施設職員との交流

ランチや休憩時間等を活用して、担当者以外の施設職員（働く大人）とも交流してもらいましょう。学生と年齢の近い大人（若い職員）が福祉の魅力を語ることは、学生にとって大きな刺激になるとともに、福祉の仕事への理解や好感をもってもらえる良い機会です。

ただし、職員は謙遜する気持ちであっても学生に対して悲観的な考え方（マイナス面）や反省点を話すことは避けましょう。社会の厳しさを伝えるといった態度もよくありません。

■ 学生の話聞く時間を持つ

緊張していた学生が馴染んできた頃に、利用者や施設職員で学生の思い・将来の夢などを聞いたり、得意なことを披露してもらったりしてもよいでしょう。

また、学生も、自分の出来ることで何か役立ちたいと思っていることがあります。提案がある場合や体験してみたいメニューなど、振り返りとは別に学生からの意見を聞いてみましょう。

（５）体験中の事故防止

介護実技などの個別メニューの体験前には、きちんとした指導をお願いします。

その上で、学生の同意も確認してください。学生は手順等を理解していないのに「わからないと言えない」と思っていたり「断れない」と思っていたりする場合があります。

事故は、思いがけないときや慣れてきたときに発生しやすいものですし、学生自身が何とかしなければという責任感や焦りを感じていて慌てることもあります。職員が学生とのコミュニケーションを常に欠かさないことは、事故防止につながります。

また、介護等体験で取得した学生の連絡先や電話番号等の個人情報、管理に十分な配慮をお願いします。

なお、職員が個人的に学生の LINE の ID 等を尋ねることや、反対に学生から職員が尋ねられ個人の連絡先を教えることは、絶対に避けてください（過去には苦情の報告事例があります）。

